

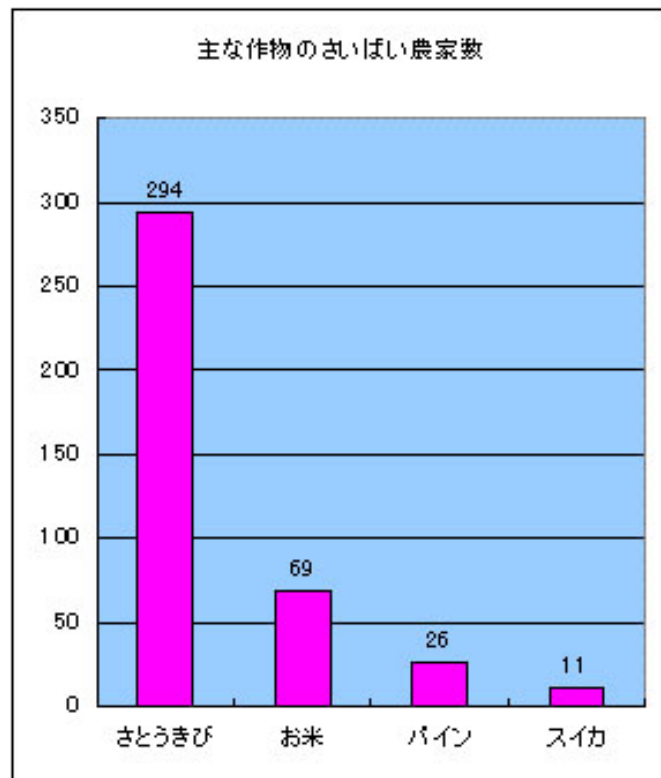
波照間のさとうきび

1. 竹富町の農業

竹富町で作られている作物の中から、何をつくっている農家が多いか順に3つ書きましょう。

1位() 2位() 3位()

このグラフからもわかるように、竹富町で一番多くさいばいされている作物は、さとうきびです。





やってみよう『さとうきびのとれる地域』
さとうきび畑の部分のみどり色でぬりましょう。



さとうきびはどの地域でさかんに作られていますか？

()

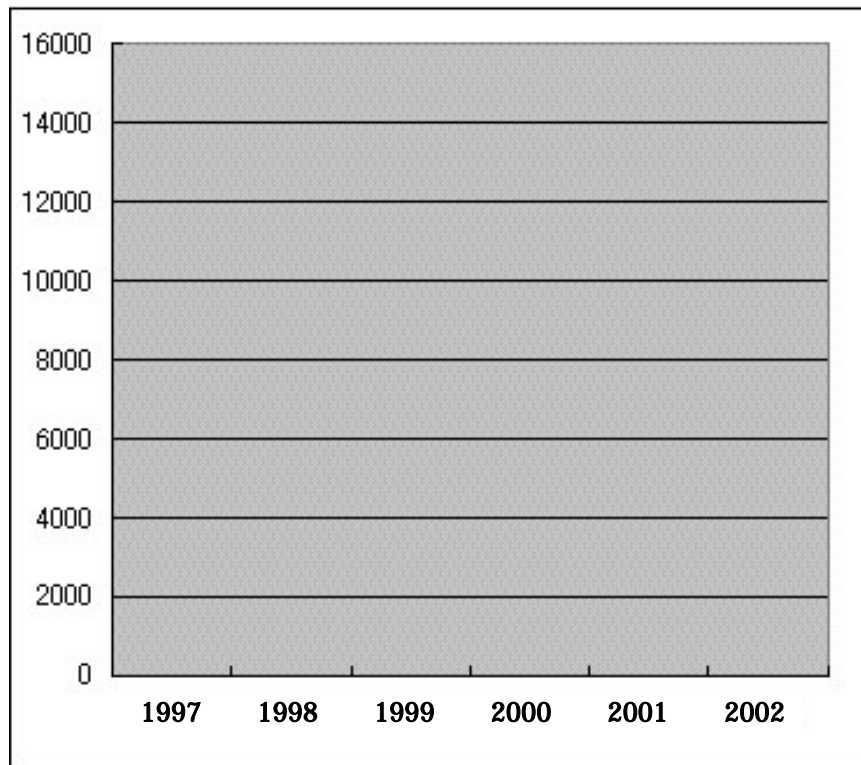


やってみよう『さとうきびの生産量(とれ高)』

次の表は、さとうきびの生産量を表わしたものです。これを棒グラフにしてみましょう。

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002
生産量(トン)	8385	13537	13032	14478	11953	12755

2002年4月現在 波照間せいとう工場調べ



2. さとうきび作り

(1) さとうきび作りのさかんな波照間島

さとうきび作りは、西表島東部、小浜島、波照間島でさかんに作られています。

なかでも一番多く作られているのは、波照間島です。前の地図からもわかるように、波照間島のほとんどは、さとうきび畑です。これから、波照間島をたずねて、さとうきび作りについて学習しましょう。

今から40年ほど前、波照間島は、半農半漁でした。夏場、男の人はカツオをとり、女の人は畑をたがやし、冬になると、さとうきびの取り入れをして生活をしていました。ところが、1962年に波照間せいとう工場がたてられてからは、カツオをとる人はほとんどいなくなり、こうして、さとうきび作りのさかんな島になったのです。

(2) さとうきび作りの主な仕事

さとうきび作りには、夏に植えて1年半かけてそだてる「夏植え」と、春に植えて1年でそだて取り入れる「春植え」があります（春植え...2月から翌年の2月にかけて）。では、さとうきびは、どのようにそだてられ、またどのように取り入れられるのでしょうか。

ここでは「夏植え」について見てみましょう。

	たがやす（6月～7月）
	畑をたがやし、土にひりょうやたいひをまぜうねを作る。

	植えつけ（8月～9月）
	30cm ぐらいに切ったねぐきをうねとうねの間にならべて植える。

	ばい土 (10月~1月)
	土からたくさんのえいようがとれるように、また台風でたおれないようにばい土をする。

	手入れ (2月~11月)
	<p>がい虫やねずみなどからさとうきびをまもる。</p> <p>薬まき (5~8月)</p> <p>草とり (9~12月)</p> <p>台風の前やあとの手入れ</p>

	しゅうかく（12月～3月）
	<p>1 本づつ、ほ先や葉を切りす てて、大きなたばにする。 ユイマールで協力し合いさと うきびをかりとる。</p>

	トラックにのせる
	<p>さとうきびをトラックにの せ、せいとう工場に運ぶ。 早ければ早いほど質のよいさと うがとれる。</p>



やってみよう『さとうきびカレンダー作り』

7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
S S S S																					

(3) さとうきび作りがさかんになったわけ

波照間島で、さとうきび作りがさかんになったのは、次のようなことが行われたからです。

- ・土地かいりょうや農道のせいびが行われ、広いさとうきび畑ができた。
- ・トラクターやことうんきなどのきかいが使いやすくなり、人手がはぶけるようになった。



- ・台風や日でりに強く、しかも早くそだつ上質のさとうきびの研究が進んだ。

3. 土地かいりょう



・土地かいりょう前



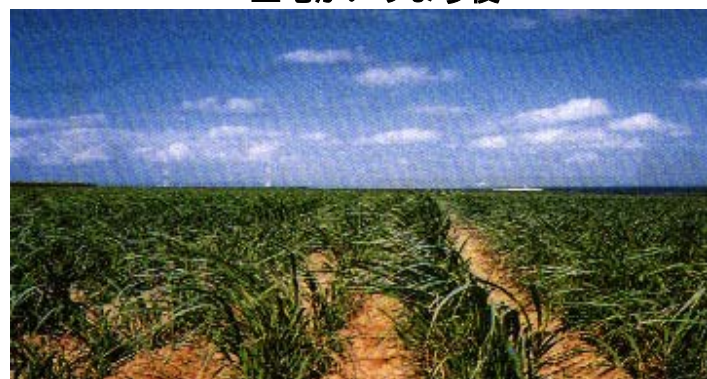
大きな石などがまじっていて、近くに森がせまっているところもある。

・土地かいりょう中



大きな石をとりのぞき、ねんど質の土をまぜて、土地を平らにならす。

・土地かいりょう後



広々とした、水もちのよい畑にかわった。

4 . さとうきびのひがい



上の写真はそれぞれ何によるひがいでしょう。

()
あなたなら、このあと何をしますか？

()

前ページの2つの写真は、台風と干ばつによるひがいです。波照間島ではおもにこの2つのひがいでなやまされています。しかし、このようなひがいにそなえて、台風や干ばつに強い種類のさとうきびを植えています。

水をかければ、この写真のさとうきびのほとんどがよみがえります。波照間島では、この水をどうするかが大きな問題となっているのです。

5．さとうきびを作る農家の声

質のよいさとうきびが、たくさんとれるように、というのが何ととっても一番のねがいだね。しゅうかく期が近づいてきたとき、真っ白いさとうきびの花をみたら、何ともいえない気持ちになるよ。

これから、土地かいりょうや機械化などで、仕事が楽になるのはいいのだが、若いあとつぎがないというのは、今の最も大きな問題だね。あと、干ばつや台風による塩がいにそなえて、かんがいしせつの充実、てんてきかんがいを広めるなど、もう少し水が使えたらいいのだが...

農家のねがいやなやみについてまとめてみましょう。

()

6．黒ざとうづくり



さとうきびからできた黒ざとうは、品質によって、特等・1等・2等・3等・等

外にわけられます。

波照間島でできたさとうきびは、ほとんどが波照間せいとう工場へ運ばれ、黒ざとうがつくられています。そこでできる黒ざとうは、質のよい特等がほとんどです。では、特等の黒ざとうをつくるために、1番大切なことは何でしょう。

1. さとうきびの質を良くする。
2. しゅうかくしたさとうきびをすぐにせい品にする。
3. さとうきびがひがいにあわないように、農薬をまいたり、水をあげたりする。
4. さとうきびの生産を高める。
5. 煮つめるときの温度を一定にする。

なぜそう思いましたか？

()

せいとう工場や農家の人たちが1番気をつけていることは、2番です。どんなに質の良いさとうきびを育てても、すぐにせい品にしないと黒ざとうの質は落ちてしまいます。そこで、しゅうかくしたさとうきびをできるだけ早くせい品にするために、せいとう工場で、しゅうかくする日にちとその畑を決めてそして“ユイマール”で協力し合うのです。

なぜ、さとうきびをできるだけ早くせい品にするために、せいとう工場で、しゅうかくする畑と日にちを決めるのでしょうか？

()

《豆知識》 ユイマール



質の良い黒ざとうを作るためには、しゅうかくしたばかりのさとうきびを、毎日同じ分量つかって作らなければなりません。そこで、しゅうかくする畑と日にちを、せいとう工場が決めているのです。

さらに、さとうきびを育てるうえで、1番手間がかかるのが、“しゅうかく”です。決められた日にちまでにさとうきびをしゅうかくするためには、どうしても人手が足りません。そこで、“ユイマール”という方法で、農家がおたがいに“しゅうかく”を手伝っているのです。

前の《豆知識》ユイマールでせいとう工場がさとうきびをしゅうかくする畑と日にちを決めるとありましたが、それにはもうひとつ理由があります。

せいとう工場ではまず、各農家をまわり、写真1のような道具を使ってあることを調べます。

そして、しゅうかくする畑と日にちを決めるときに、その結果をもとに順番を決めるのです。



やってみよう

せいとう工場では写真1の道具で何を調べてからとり入れの順番をきめるのでしょうか？

1. さとうきびの甘さ
2. さとうきびの病気

3. さとうきびの水分



写真1 (計)

せいとう工場のおじさんの話

さとうきびの糖度は12月ごろから上がり始めるんだ。この糖度がもっとも高くなったころ、つまり一番甘くなったころをみはからってしゅうかくする。それが上質の黒糖を作るひけつだね。だから波照間では、せいとう工場のしょくいんが各農家を一つ一つまわって、さとうきびの糖度を調べてからしゅうかくの日にちを決めるんだ。

こういったとり入れ順番の決め方だと、せいとう工場の人たちの仕事も増えるし、農家の方たちにも協力してもらわないとできないから、とても大変なんだよ。けれど、波照間の人たちみんながおいしい黒糖を作るためにユイマールの心で協力し合ってがんばっているんだよ。